

2013 仮設ジャズライブステージ

Temporary Jazz Live Stage

AD 16 佐藤 陽一
指導教員 比留間 真

1. 研究目的

路上演奏をするジャズミュージシャンをよく目にするようになった頃だが、その殆どがステージなしでの演奏か、もしくは非常に簡単なつくりのステージで演奏している。日本においてジャズというものは、お店やライブイベントなどに行かなくては本格的に楽しむことができない。しかしそれではジャズをあまり聴かない人にとって、例え興味があっても入りにくい世界となってしまう。路上演奏でもっと気軽にかつ本格的にジャズを聴くことはできないのだろうか。以上のことをふまえ、私は仮設ジャズライブステージについての研究をする。

2. 調査と分析

老若男女問わず様々な人々が集まる場所で多数のライブハウスがあり、音楽をする人が沢山集まるという理由から、吉祥寺を調査の対象とした。まず吉祥寺には路上演奏をしている場所が10ヶ所ほどあり、そのほとんどはロックやポップスなどジャズはまだまだ少数派、ステージはなく観客と同じ目線で演奏をしていた。また、人だかりができ往来の邪魔になるような場所も少なからずあった。雨が降ると演奏している人は完全に居なくなっていた。このような路上演奏の利点としては、演奏者に聞いたところ「気軽さ」と「人の目につきやすい」というものであった。その反面、観客側からは「演奏者が見えない為、盛り上がり欠ける」という意見が寄せられた。次にステージのある場所での演奏を調査した。そのほとんどは大きなイベントになってしまい、路上演奏とは若干異なるものとなっていた。仮設ステージは屋根や壁がないなどの問題が見受けられ、その理由としては主にコスト削減、設置時間の短縮などが考えられた。利点としては、演奏者から「雰囲気ができる」というのと「しっかりとした演奏ができる」という意見があった。観客側からは「くつろいで演奏を聴ける」との声が上がった。

3. コンセプトの立案

「路上演奏で気軽にジャズを聴くことができる仮設ステージ」を目指し、ステージのない路上演奏と、ちょっとしたイベントでのライブ、その二つの利点を組み合わせたちょうど中間のようなステージを作成する。また、コスト・簡単な組み立て・移動を考慮し、FUSO4tトラックに積める程度のもので限定する。設

計条件としては壁、屋根のあるステージというものを前提とする。

4. デザイン展開

まず野外での演奏は雨風を防げるということをお前提となり、また音響も考慮しなくてはならない。そのことから壁、屋根があるということをお重視し、ドーム形状のデザインにした。また、強度や構造を考えたとき、ジオデシック・ドームの構造を参考にした。ジオデシック・ドームとは建築家バックミンスター・フラーによって考案されたドーム状建築物のことである。利点としては、3タイプある三角形のパネルを組み合わせることで簡単に組み立てることができ、三角形を基調とした構造のため強度が高いということ、また背後からドーム状に壁面が広がるため、音を逃すことなく前へと飛ばすことができるということである。ステージにおいては、1958年ニューポートで行われたジャズフェスティバルに使用されたステージをイメージしたデザインになっており、ジャズのムードを出す。箱型となっているため重ねて運搬できるほか、必要な場合は内部にスピーカーを装着し、前方から音を飛ばすことができる。

5. 完成図



6. 結論

演奏者に意見を聞いたところ、歩行者の目を引くデザインがいいと評価された。しかし、ドーム形状のドラムの置く位置や両サイドの天井の低さなどに不安があるという意見を頂いた。また、周りを囲まれているため暗い印象があるという指摘を受け、照明などをもっと考慮すべきだと感じた。

7. 参考文献

自分で建てるジオデシックドーム
<http://www.geodesicjapan.com/dome/>